

## はじめに

教職課程センター長 宮崎孝治

本誌は江戸川大学教職課程紀要「教育総合研究」の創刊号です。

江戸川大学の教職課程は、43年ぶりの全国学力・学習状況調査が実施された平成19年度に開設され、教員養成についてはまだ駆け出しの状況にあります。本学が掲げる「喜働」及び「人間陶冶」の理念のもと、知・徳・体をバランスよく育てることのできる教員の養成をめざし、総合大学と比較し少人数である利点を活かし模擬指導機会の積極的導入やPCの活用等、独自に工夫し教育を展開してきました。

その一例として、実践的指導の場として「教職セミナー」を毎週開講し、参加学生にマイクロティーチングの実施を課し、教職課程センター所属の複数の教員及び参加学生による指導評価を継続して行っています。また、夏期及び春期には教職課程センター主催により、模擬授業に特化した4泊5日の合宿も実施しています。PCはこれらの機会に活用しています。学生の行う模擬指導について、全ての指導案・使用資料・自己及び他者の授業評価を学習支援システム上に保存し、模擬授業の実際をビデオ撮りしデジタル保存し、指導の振り返り及び授業研究に活用しています。また、「履修カルテ」も学習支援システム上に独自に構築し利用しています。

このような工夫の一方で、文部科学省の「教職課程認定大学実地視察報告書」を読みますと、他大学の先進的な実践例が数多く報告されており、学ぶ事が多々あり、本学もまだ道半ばであることを実感させられます。

幸いなことは、新規開設にあたり教員養成に意気込む教員の熱意に応え真摯に学ぶ学生に恵まれ、また全学において教職課程運営の支援体制が整備され物心両面から支援を受けられることから、教員免許状取得者を着実に輩出すると共に複数年にわたり教諭となる卒業生が続いていることです。

本年度の教職課程センターでは、昨年8月の中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」等を考慮し、養成する教員の具体像に「学び続ける教員」を付加等しました。また、新規の事業として、学内外の方々に江戸川大学教職課程に関連する教員の研究内容及び教職課程の現況をお知らせするため本紀要の発刊を企図しました。

執筆者には、本学教職課程に関係がある方々に依頼し、本学教員はもちろん大学院生から校長職経験の方まで幅広く執筆していただきました。

今回の発刊を機に、今後も教員養成の充実を図っていきたいと思っております。ご批判・ご指導のほどよろしく願いいたします。